

資料 2 - 2 - ① - 2

鶴岡工業高等専門学校運営会議規程 (抜粋)

制 定 平成 1 5 年 3 月 3 1 日
 (全部改正)
 最終改正 平成 2 4 年 2 月 2 9 日

鶴岡工業高等専門学校運営委員会規程 (昭和 4 4 年 4 月 1 日制定) の全部を改正する。

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 1 7 条第 2 項の規定に基づき、運営会議 (以下「会議」という。) の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 会議は、次の事項を審議する。

- 一 規程等の制定及び改廃に関する事項
- 二 本校の運営に関する重要な事項
- 三 本校に設置するセンター等の管理運営に関する事項
- 四 構成員及び各種委員会等の長から検討を要請された事項

(出典：規程集)

資料 2 - 2 - ① - 3

運営会議議事録 (抜粋)

平成 2 4 年度第 1 3 回運営会議議事要旨

日 時 平成 2 5 年 1 月 9 日 (水) 1 5 : 5 2 ~ 1 6 : 5 5

場 所 大会議室

出席者 加藤校長、柳本教務主事、江口学生主事、佐藤(浩)寮務主事、宮崎専攻科長 (兼 教育研究技術支援センター長)、佐藤(貴)地域共同テクノセンター長、窪田図書メディアセンター長、白野学生支援センター長、内山国際交流支援室長、飯島FD委員会委員長、澤G科長、本橋M科長、佐藤(秀)E科長、栗野B科長、吉住I科長 (兼 認証評価対応委員会委員長)、落合事務部長、土門総務課長、黒田学生課長

欠席者 竹村総合情報センター長

陪席者 川上総務課課長補佐 (総務担当)、山口総務課課長補佐 (財務担当)

(3) 教育改善アンケートの結果について

本件について、FD委員長から、FD委員会は点検業務を担っていることから、この場で資料 9 及び席上配布資料のとおり評価・改善委員会委員長 (寮務主事) あてに提案させていただきたい旨、また、この結果をもとに評価・改善委員会において対応を検討いただき、教務委員会へご提案願いたい旨述べられた後、資料 9 に基づき委細説明があった。

次いで、チャイムの縮減に関しては、将来構想・戦略会議と学生会との懇談会では、概ね好評であったので、低学年と高学年とで差があるのではないかと、また、質問を具体的に等アンケートの取り方を工夫する必要があるのではないかと意見も出された。

(出典：運営会議議事録)

資料 2-2-①-4

鶴岡工業高等専門学校将来構想・戦略会議規程 (抜粋)

制 定 平成 24 年 2 月 29 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 19 条第 3 項の規定に基づき、将来構想・戦略会議（以下「会議」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 会議は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 新規事項又は将来的事項に対する戦略の策定に関すること。
- 二 教育及び研究活動の将来構想に関すること。
- 三 管理運営の将来構想に関すること。
- 四 施設・設備の将来構想に関すること。
- 五 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画及び年度計画に基づく、本校の年度計画の策定及び実施結果の評価に関すること。
- 六 会議及び運営会議の構成員並びに各種委員会等の長から検討を要請された案件に関すること。
- 七 その他、校長及び構成員が必要と認めた事項に関すること。

(出典：規程集)

資料 2-2-①-5

将来構想・戦略会議議事録(抜粋)

平成 24 年度 第 3 回将来構想・戦略会議議事概要 (抜粋)

日 時：平成 24 年 6 月 6 日（水） 10：30～12：30

場 所：校長室

出席者：校長、柳本教務主事、江口学生主事、佐藤（浩）寮務主事、宮崎専攻科長、佐藤（貴）地域共同テクノセンター長、事務部長、総務課長、学生課長、総務課課長補佐（総務担当）、総務課課長補佐（財務担当）、学生課課長補佐
総務課総務係長

議 題

(3) 平成 24 年度 CO-OP 教育推進計画について

本件について、地域共同テクノセンター長から、今年度新たに設置された CO-OP 教育推進室の活動の一つとして、鶴岡高専技術振興会の協力を得て地域企業訪問研修会を実施したい旨資料 3 に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

関連して、後日、CO-OP 教育推進室の取り組みについて説明を行いたいので、別途日程調整をする旨述べられた。

(出典：将来構想・戦略会議議事録)

資料 2-2-①-6

鶴岡工業高等専門学校教務委員会規程 (抜粋)

制 定 平成 15 年 3 月 31 日
 (全部改正)
 最終改正 平成 24 年 2 月 29 日

鶴岡工業高等専門学校教務委員会規程 (昭和 44 年 4 月 1 日制定) の全部を改正する。

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 19 条第 3 項の規定に基づき、教務委員会 (以下「委員会」という。) の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の名号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育目標、方針、手段及び教育環境の基本方針に関する事項
- 二 教育課程に関する事項
- 三 卒業、修了及び進級等に関する事項
- 四 学校行事に関する事項
- 五 授業時間割の編成に関する事項
- 六 非常勤講師の授業担当に関する事項
- 七 教務に関し、校長が諮問した事項
- 八 その他教務に関し必要な事項

(出典：規程集)

資料 2-2-①-7

鶴岡工業高等専門学校専攻科委員会規程 (抜粋)

制 定 平成 25 年 2 月 12 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 19 条第 3 項の規定に基づき、専攻科委員会 (以下「委員会」という。) の組織及び運営等に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、専攻科に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育目標、方針、手段及び教育環境の基本方針に関する事項
 - 二 教育課程に関する事項
 - 三 入学、修了等に関する事項
 - 四 学校行事に関する事項
 - 五 授業時間割の編成に関する事項
 - 六 非常勤講師の授業担当に関する事項
 - 七 教務に関し、校長が諮問した事項
 - 八 日本技術者教育認定機構 (JABEE) によって認定された技術者教育プログラムの管理運営に関する事項
 - 九 その他教務に関し必要な事項
- 2 委員会は、前項の審議にあたっては、必要に応じて教務委員会と緊密な連携をとるものとする。

(出典：規程集)

資料 2 - 2 - ① - 8

鶴岡工業高等専門学校 F D 委員会規程 (抜粋)

制 定 平成 2 4 年 2 月 2 9 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 1 9 条第 3 項の規定に基づき、F D 委員会 (以下「委員会」という。) の組織及び運営等に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規程において、F D とは、教員の職務能力を高め、本校教育の質的向上を目指す組織的な活動をいう。

(任務)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、実施する。

- 一 教育目標、方針、手段及び教育環境の点検評価に関する事項。
- 二 日本技術者教育認定機構 (JABEE) によって認定された技術者教育プログラムの点検評価に関する事項。
- 三 F D に関する事項。
- 四 その他委員会が必要と認める事項。

(出典：規程集)

資料 2 - 2 - ① - 9

鶴岡工業高等専門学校評価・改善委員会規程 (抜粋)

制 定 平成 2 4 年 2 月 2 9 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 1 9 条第 3 項の規定に基づき、評価・改善委員会 (以下「委員会」という。) の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

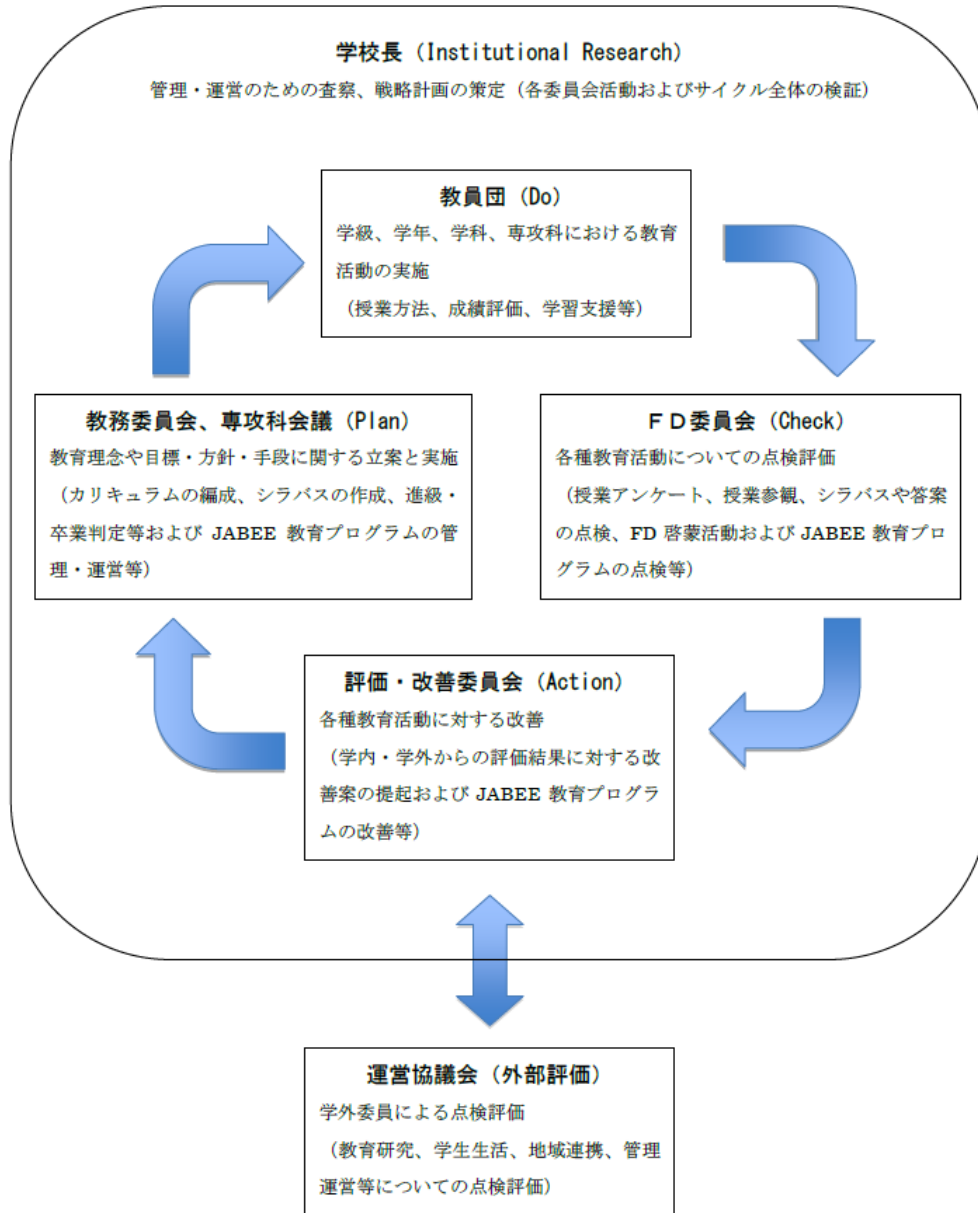
(任務)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、実施する。

- 一 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画及び年度計画に基づく、本校の年度計画の策定、実施状況のとりまとめ並びに評価及び改善に関すること。
- 二 教育目標、方針、手段及び教育環境の改善に関すること。
- 三 日本技術者教育認定機構 (JABEE) によって認定された技術者教育プログラムの改善に関すること。
- 四 その他委員会が必要と認めること。

(出典：規程集)

教育関係のPDCA概念図



(出典：FD委員会資料)

評価・改善委員会による提言事例

平成 25 年 2 月 13 日

教務委員会委員長 柳本 憲作 殿

教育改善に関する提言

評価・改善委員会委員長 佐藤 浩

教育改善について次の 3 つのことを提言します。

1. 自宅学習時間を増やすこと

学習時間の少なさが目立つ。学習の時間を確保させ、いかに学力向上につなげていくかが大きな課題である。学生個人の自主性に任せるだけでは解決困難である。予習・復習をしなければならないような環境づくりやグループワーク・S A ・T A などの体制づくりも必要である。

2. オフィスアワーを推進すること

平成 21 年度実施の学生アンケート結果と比較して、注目すべきところは学習支援である。前回は、オフィスアワーを必要とする学生が多かったが、今回はオフィスアワーを必要としない学生が増加している。学習支援のひとつとしてその周知を徹底することである。

3. 資格試験のための授業を増やすこと

資格試験のための授業を平成 21 年度から強く要望しているがそれが改善されていない。本校では資格取得を推進している。英語関係だけでなく、各科の専門に応じた資格試験のための授業や補習を検討すべきである。

以上

(出典：評価・改善委員会資料)

教育改善の審議事例

平成 25 年度第 2 回入学試験委員会及び第 3 回教務委員会議事概要（抜粋）

日時 平成 25 年 4 月 24 日（水）

16:00～18:15

場所 大会議室

- 出席者 【入学試験委員会】柳本委員長、佐藤（浩）、本間（浩）、飯島、窪田、本橋、佐藤（秀）、吉住、瀬川、神田の各委員、学生課長
【教務委員会】柳本委員長、窪田、本橋、佐藤（秀）、吉住、瀬川、田中、神田の各委員、学生課長
- 欠席者 【入学試験委員会】宍戸委員、事務部長
【教務委員会】宍戸委員、南委員

議 題

1) 教育改善に関する提言への対応について（教務）

委員長から、前回教務委員会に評価改善委員会からの教育改善に関する提言（資料 6-1）があり、その内容について各学科の現状をお知らせいただいていた旨発言の後、各学科長から現状や今後の予定も含め、資料 6-2 に基づいて説明があった。委員から、提言内容である自宅学習時間の増加、オフィスアワーの推進、資格試験に関する授業の増加に関して種々意見交換がなされた。

また、資料 6-3 に基づき、退職した本校 O B のデータベース化について委員長から説明があり、黒田委員より補足説明があった。その後委員から庄内地区で退職した本校 O B に限定して同窓会にデータ作成を依頼してはどうかとの発言があった。

2) 「教育目標等の認知度に関するアンケート」の結果と提言への対応について（教務）

委員長から資料 7 に基づいて説明があり、評価改善委員会からの提言を受けて、校訓や基本教育目標を各クラスに掲示したい旨発言があり、了承された。また、神田委員よりキャリア教育の中のスキルアップ講座でも説明を行っていききたい旨発言があった。

(出典：教務委員会資料)

評価・改善委員会の提言に基づく立案, 実施例

平成 25 年 5 月 29 日

鶴岡高専 教務委員会

平成 25 年度学習目標 (案)

学生諸君へ

1、毎日 2 時間の復習の習慣を付けよう。

本校の基本教育目標に、「専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う」があります。これは、特に英語や数学、各専門科目を毎日復習しないと達成できるものではありません。また 4, 5 年生では、自学自習を義務づける「学修単位」が導入されています。1 年生から授業を受ける以外に意識的に自分で勉強することが必要です。

そのためには、一日 2 時間の復習が続けられるよう習慣付けてください。

2、オフィスアワーに質問にいこう。

シラバスには教科ごとにオフィスアワーの時間が明記されています。さらに各教員室の前にオフィスアワー時間が張り出されています。

「オフィスアワー」とは担任以外に教科担当の先生が学生の質問や勉強の相談を受け付ける時間です。先生はその時間を確保して、授業とはちがう形で学習上の助言を与えてくれます。積極的に利用してください。

3、TOEIC や資格の取得に挑戦しよう。

本校では「自学自習」をモットーにしています。自分の目標を決めて学習しましょう。4 年生の英語では TOEIC (英語国際コミュニケーション能力テスト) の受験を義務化しています。実用英検や工業英検、TOEIC (スコアに応じ)、甲種危険物取扱者は、高学年で単位を認定しています。高専では、科目の勉強をすることが各種の資格を得る勉強にもなっています。資格は就職や社会生活での「人生の戦いの武器」になります。

学生課前の掲示板には資格・検定試験に関するコーナーも設けられています。一度のぞいてみてください。

以上

(出典：教務委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

運営会議，将来・構想戦略会議，教務委員会，専攻科委員会等，規程が定められており，教育活動については常にPDCAサイクルがまわり，活動を停滞なく行っている。教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われている。

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

(観点到に係る状況)

本校においては，教務委員会，専攻科委員会，FD委員会，評価・改善委員会を中心として，一般科目と専門科目の両担当教員間との連携が取られている。上記委員会は，総合科学科，専門4学科から各々メンバーを参集し，一般科目と専門科目の連携についても検討し，実施に移せる体制になっている(資料2-2-②-1)。

連携事例として，専門科目を習得する基礎となる数学，物理の学力向上が挙げられる。例えば，モデルコアカリキュラムに関して自己点検評価を行った際には，専門科目で必須な項目について明らかにし，一般科目を教授する総合科学科教員に伝え，一般科目で習得する数学，物理の内容を改善する活動を行っている(資料2-2-②-2)。

また，FD委員会による教員間の授業参観とその後の研修会においても，平成24年度は，基礎専門科目である数学及び物理と，それに関連が強い専門科目を重点的に参観し，研修会を行った(資料2-2-②-3)。

コミュニケーション，国際教育に関しても，英語科の協力のもと，平成24年度から海外工場見学を実施している(資料2-2-②-4)。また，1，2年生を担当する一般科目教員が，専門科目教員と連携し，特別活動の時間を使って積極的にキャリア教育に取り組んでいる(資料2-2-②-5)。

平成25年度校務分掌（抜粋）

教務委員会	委 柳本(I), 窪田(G), 本橋(M), 佐藤(秀)(E), 吉住(I), 瀬川(B), 田中(M), 神田(E), 宍戸(I), 南(B), 学生課長 11名
学生委員会	委 佐藤(浩)(G), 本間(浩), 野々村(G), 小野寺(M), 保科(E), 渡部(I), 上松(G), 田邊(G), 阿部(秀)(G), 徳永(M), 五十嵐(M), 森谷(E), 安齋(I), 佐藤(司)(B), 学生課長 15名
寮務委員会	委 本間(浩)(G), 佐藤(浩)(G), 茨木(G), 矢吹(M), 宝賀(E), 西山(I), 加田(G), 比留間(G), 主濱(G), 田阪(G), 佐々木(M), 佐藤(淳)(E), 内海(I), 戸嶋(B), 寮監, 事務部長, 学生課長 17名
専攻科委員会	委 飯島(B), 佐藤(淳)(E), 宍戸(I), 矢吹(M), 保科(E), 戸嶋(B), 主濱(G), 学生課長 8名
FD委員会	委 渡部(I), 木村(G), 竹村(M), 武市(E), 清野(B) 5名
評価・改善委員会	委 佐藤(浩)(G), 飯島(B), 佐藤(貴)(B), 大河内(G), 佐藤(淳), 江口(E), 内山(E), 事務部長 8名

(G):総合科学科, (M):機械工学科, (E):電気電子工学科, (I):制御情報工学科, (B):物質工学科

(出典:総務課資料)

平成24年12月12日
教員会議 学生課

資料 No. 3

平成24年12月12日

教員各位

教務委員会

モデルコアカリキュラムと担当科目（シラバス）との整合性確認についてのお願い

現在、国立高専全体の取り組みとして、教育の質保証の観点から、すべての学生に到達させることを目標とするミニマムスタンダードとしてモデルコアカリキュラムを策定し、各高専の実情に応じて導入する活動を進めています。教職員の皆さまへは平成24年3月23日付けの「モデルコアカリキュラム（試案）」という赤ピンクの冊子が配布されております。今一度、見直して頂き、モデルコアカリキュラムの意義についてご確認していただきたいと思っております。

本校としても、上記カリキュラムをベースとして、更に教育の質を向上させるべく、本校でのカリキュラムを充実させていきたいと考えています。

そこで、まず今年度は、

“モデルコアカリキュラムと本校での開講科目（シラバス）との整合性確認”
シラバスの授業内容、到達目標とその到達レベル（新規）の記入をお願い致します。

手順

- 各担当者から配布する各分野のチェックシート（エクセル表）を参照して下さい。
数学自己点検、自然科学自己点検、人文・社会科学自己点検、
機械系分野自己点検、電気電子系分野自己点検、
情報系分野自己点検、化学系分野自己点検の各シートには、対応科目が記載済み。
- 当該科目の各学習内容の到達目標に応じた空欄に該当レベルを記入
①本校での該当レベルをモデルコアカリキュラムと比較して記入
（空欄にプルダウンで選択）

S：到達目標以上の発展を教えている
A：到達目標の内容を教えている
B：到達目標より不十分
-：あつかっていない

②専門科目の中で、数学、物理、化学の学習内容の一部を教えている場合も、該当する項目に「S」もしくは「A」を記載して下さい。また、記載もれの科目がありましたら、科目名と学年の欄を起こして記入願います。

- *現在Bであるが、来年度はシラバスに反映しAにする場合は、Aと記入して下さい
- *各学習内容と目標の部分には、各科目が重複していても構いません
- *来年度のシラバス策定に向け、モデルコアカリキュラムを参考にして下さい

以上、ご多忙のところではありますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。
なお不明な点がありましたら、各科担当者の総合科学科（上松）、機械工学科（田中）、電気電子工学科（神田）、物質工学科（南）まで、お知らせ下さい。

※提出期限を平成25年1月25日（金）まで、教務係まで返信願います。

（出典：教員会議資料）

平成 24 年度 授業参観研修会議事録（電気電子工学科）

平成 25 年 1 月 15 日（火）、 16 時 00 分 ～ 16 時 45 分、 会場：小会議室

出席者（学科参加者）：江口 宇三郎、佐藤 秀昭、吉木 宏之、内山 潔、神田 和也、保科 紳一郎、武市 義弘、宝賀 剛、加藤 健太郎、森谷 克彦

（学科外参加者）：

宮崎 考雄、白野 啓一、本橋 元

司会者：加藤 健太郎

記録者：森谷 克彦

〈研修内容〉

1. 参観授業（「授業参観研修会報告書」の通り）

授業参観研修会報告書の通り被参観者より説明が行われた。今年度電気電子工学科の被参観者は宝賀先生、吉木先生の 2 名であった。総評としてどちらの先生も評価の高い授業をされているが、声が大きく後ろまで届くという点で共通していた。

どちらも評価の高い先生であったが研修で共通して課題とされていたのは、授業のレベル、授業の進み具合、課題などをどの成績のレベルの学生に焦点を当てるのかという点であった。

プログラミングの授業は特にそれが難しいと思われるが被参観者の宝賀先生は、教科書の例題レベルの比較的基本的な内容、演習を授業中に行い、学生で解答時間が大きく変わる応用問題については宿題という形で出すという工夫をされていた。

吉木先生は、双方向の授業を心がけられており、板書で黒板が埋まる間隔で学生に質問をされているとのことであった。また公式のごろ合わせ、物理現象の具体例を話すなど学習内容が定着するよう工夫をされているとのことであった。説明の後、フリーディスカッション

が行われた。特に話題となったのは科目間の繋がりに関する事と学生の数学の知識に関する話であった。科目間の繋がりが学生に伝わりにくいと学生の数学の知識に関連する授業進捗の問題は、多くの電気電子工学科の教員が共通として問題として考えているようであった。

2. 授業参観及び授業参観研修会についての意見・提案

開催時期が今年は少しずれこんだため、被参観者の参観授業の選定に影響が出た。

3. 所感

当初 1 人 10 分程度を予定していたが、思いの外、意見が多く出たため一人当たり 20 分の 40 分の研修会となった。同じ科目、関連科目などを担当する教員から活発な意見を出していただいたため、有意義な議論となった。

4. その他

特になし。

（出典：FD委員会資料）

資料 2 - 2 - ② - 4

平成 24 年 4 月末日

第 4 学年 学生 各位

平成 24 年度 第 4 学年海外工場見学実施要項

教務主事

下記に平成 24 年度「第 4 学年海外工場見学実施要項」を示します。

記

日 程	11 月 6 日 (火) ~ 10 日 (土)	現地 2 泊 3 日、機中 2 泊
	11 月 6 日 (火)	18:10 庄内空港 19:15 羽田空港 00:30 羽田空港
		機内泊
	11 月 7 日 (水)	6:00 バンコク・スワナブーム空港到着 KMITL イントロダクション・レクチャー・キャンパスツアー
	11 月 8 日 (木)	カルチャー&テクニカルツアー
	11 月 9 日 (金)	学生グループ自由行動 (KMITL 学生と交流)
		22:40 バンコク
		機内泊
	11 月 10 日 (土)	6:30 羽田空港 13:15 庄内空港

※現地では、「仙台高専」と同一行動となります。

宿 泊 バンコク市内ホテル

現地移動 借り上げバスまたはワゴン車 (人数により変更する可能性があります)

費 用 航空券代金 95,000 円 ※ (庄内空港 : 出発) ~ (庄内空港 : 到着)
 地上費 25,000 円 ※ホテル代、バス代、食事代等
 合 計 120,000 円
 ※あくまで、4 月時点での見積りですので、変動する可能性があります。
 ※関東方面工場見学同様、積立金より 50,000 円前後が補填されます。

応募～実施スケジュール

4 月下旬～5 月末	学生募集
9 月～	諸手続き開始 パスポート取得等
9 月～10 月	語学研修会 2 回～3 回 (KMITL にて簡単なレクチャーの準備)
10 月下旬	指導会&壮行会

応募方法 学生課教務係の「海外工場見学参加希望者台帳」に各自記載。

備 考 ・パスポートは各自取得
 ・海外渡航保険は各自契約
 ・不明な点、確認したい点等については、教務係まで問い合わせ願います。
 ※パスポート取得手続き、海外渡航保険等については、説明会を開催します。

案 内 現在、タイの学生 3 名が来校しています。
 (佐藤 (義), 三村研究室 (3 か月), 内海研究室 (2 か月)) いずれも制御情報工学科
 5 月 7 日からはスメット先生が内海研究室に 1 か月滞在します。

(出典：教務委員会資料)

鶴岡工業高等専門学校 総合科学科(国語科・機械工学科 2年担任)大河内邦子
研究テーマ: 学科連携で取り組む高専低学年向けキャリア教育



序論: 高専の低学年向けキャリア教育は、各高専独自に行われていることが、第 2 回女子・高専・技大コロキウム分科会(平成 23 年度・14 高専参加)で、明らかになった。本高専においても、機械工学科教員と担任とが、学科間連携しての教育実践を、2年間行っている。その契機は、平成 23 年度入学の機械工学科 40 名の内 9 名が、同学科を第一志望としない学生であったことによる。これを受けて、1 年次、2 年次各 5 時間を、特別活動(32 時間)中の担任特活(1 年次:13 時間、2 年次:10 時間)の中に配当した。下記の表が、その指導計画である。本事例研究での 2 度のアンケート結果から、応用可能な低学年向けキャリア教育のアウトラインを作成したい。

	平成 23 年度 1 年次	時間数	平成 24 年度 2 年次	時間数
1	○機械工学科 A 教員研究スピーチ	1	○専攻科生の勉強法・研究スピーチ	1
2	○機械工学科 B 教員研究スピーチ	1	○機械工学科 D 教員研究スピーチ	1
3	○機械工学科 C 教員研究スピーチ	1	○E 教員(OB)卒業生の動向スピーチ	1
4	●目標・将来について 『私の転職』 ^{※1} を読んで 学生のプレゼンテーション	1	●目標・将来について 『ものづくり日本大賞』 ^{※2} を読んで 学生のプレゼンテーション	1
5	△校長との対話	1	△学科長との対話	1

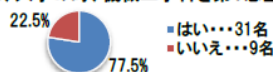
※1 香川高専 平成 22 年刊
 ※2 日本機械工業連合会 平成 22 年刊
 *左記の表の 1~8 は 実施済み

○=機械工学科教員の各人の研究、専攻科生の勉強法・研究に関するスピーチ→学生は Thank You Card を書く。
 ●=情報処理科目担当の機械工学科教員によるパワーポイント作成の指導→学生は、これを使ってプレゼンテーションをする。
 △担任(国語科)による手紙文の指導→手紙文の返答という形で、学生に対し、校長・学科長とがそれぞれ対話をする時間を持つ。

本論: 平成 24 年 10 月 1 日に行った第 1 回目のキャリア教育アンケート結果を下記に示す。

アンケート対象: 鶴岡高専 23 年度入学 機械工学科学生 40 名(男子 39 名・女子 1 名)

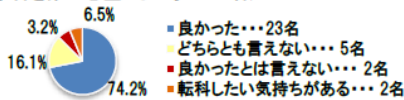
1. あなたは、入学の時、機械工学科を第 1 志望としましたか。<フェイスシート>



2. 1 年半機械工学科で過ごしてみて、今はどんな気持ちですか。

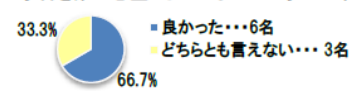
*1 で「はい」と答えた学生

(機械工学科を第一志望とした学生 31 名)



*1 で「いいえ」と答えた学生

(機械工学科を第一志望としていなかった学生 9 名)



3. 1 年次のキャリア授業は、心に残りましたか。

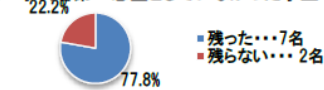
*1 で「はい」と答えた学生

(機械工学科を第一志望とした学生 31 名)

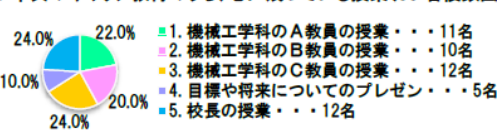


*1 で「いいえ」と答えた学生

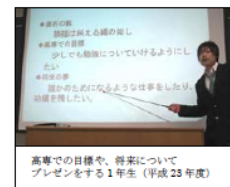
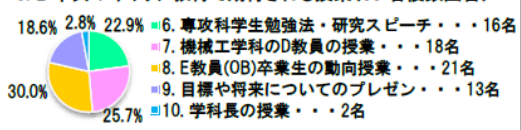
(機械工学科を第一志望としていなかった学生 9 名)



4. 1 年次のキャリア教育のうち、心に残っている授業(33 名複数回答)



5. 2 年次のキャリア教育で期待される授業(38 名複数回答)



アンケート分析と結論: 上記のアンケート結果から、現時点で考察できることは、以下の点である。

2. の質問について、機械工学科を第 1 志望としていなかった学生が、その後当該学科に所属したことを「良かった」「どちらとも言えない」としているのに対し、むしろ、希望学科に入学した学生の中に、現状に不満を抱く学生が存在することがわかる。これは、15 歳で学科まで決定することの難しさを示している。

3. の質問でのキャリア授業への学生の評価は高い。自由記載欄に肯定的意見(16 名)、否定的意見(4 名)が寄せられている。前者には、「機械工学科からの進路を理解できた」「研究への興味」「勉強への意欲」等があり、「ワークショップの展開を希望」という提案にまで及ぶ。後者には、「知らない」「難しい」「自分には遠いこと」とあった。

4. 「1 年次で心に残った授業は」という問いには、多岐への志向を示し、ほぼ均等に各教員の授業を挙げている。

5. は、2 年次のキャリア授業への期待値を表したものであるが、38 名の学生が答えている。つまり、1 年次の授業に不満足な学生も、期待の回答をしている。結論は、24 年度末実施予定のアンケート結果と合わせて導きたい。



その他:

「コミュニケーションスキル」「アサーションスキル」等についての企業での講演。
 カルチャーセンターでの朗読などの生涯学習指導。文学館でのコーディネーター活動。

(分析結果とその根拠理由)

教務委員会，専攻科委員会，FD委員会，評価・改善委員会では，総合科学科と専門4学科の教員が委員になっており，授業の内容や進捗について審議がなされている。一般科目と専門科目の教員間の連携の例として物理，数学の学力向上，コミュニケーション，国際教育，キャリア教育等がある。

以上により，一般科目と専門科目の教員間の連携が機能的に行われている。

観点2-2-③： 教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程では，各学級に学級担任が配置される。学級担任は，学生委員会から学生生活指導の手引きが提示され，手引きに基づいて円滑に担任業務が行える(資料2-2-③-1～2)。また，1，2年生では担任会，3年生以上では学科会議が担任を支援している(資料2-2-③-3～4)。また，専攻科課程においては，学級担任に相当する専攻長が配置されており，指導教員を支援している。

各学年，学級の状況は教員会議で報告され，全教員に周知され教育活動の情報の共有化を図っている(資料2-2-③-5)。専攻科課程においては，専攻科委員会があり，支援組織として機能している。さらに，高専総合管理システムにより，成績管理，出席管理等の合理化を図り，教育活動を円滑に推進している(資料2-2-③-6)。

課外活動の顧問教員に対しても，学生生活指導の手引き等で留意点が示され，学生委員会が支援している(資料2-2-③-7～8)。また，本校後援会からは，遠征時における学生引率旅費等の支援がある(資料2-2-③-9)。

学級担任, 専攻長

校 長	加 藤 靖
-----	-------

主事・主事補

教 務 主 事	学 生 主 事	寮 務 主 事
柳 本 憲 作	佐 藤 浩	本 間 浩 二
教 務 主 事 補	学 生 主 事 補	寮 務 主 事 補
穴 戸 道 明	野 々 村 和 晃	茨 木 貴 徳
田 中 浩	小 野 寺 良 二	矢 吹 益 久
神 田 和 也	保 科 紳 一 郎	宝 賀 剛
南 淳	渡 部 誠 二	西 山 勝 彦

専攻科長・専攻長

専 攻 科 長	機 械 工 学 専 攻 長	物 質 工 学 専 攻 長
飯 島 政 雄	佐 藤 淳	飯 島 政 雄

学科長

学 科	氏 名
総 合 科 学 科	窪 田 眞 治
機 械 工 学 科	本 橋 元
電 気 電 子 工 学 科	佐 藤 秀 昭
制 御 情 報 工 学 科	吉 住 圭 市
物 質 工 学 科	瀬 川 透

センター長・室長

職 名	氏 名
図 書 メ デ ィ ア セ ン タ ー 長	大 河 内 邦 子
総 合 情 報 セ ン タ ー 長	佐 藤 淳
地 域 共 同 テ ク ノ セ ン タ ー 長	佐 藤 貴 哉
学 生 支 援 セ ン タ ー 長	江 口 宇 三 郎
教 育 研 究 技 術 支 援 セ ン タ ー 長	飯 島 政 雄
国 際 交 流 支 援 室 長	内 山 潔

学級担任

学 年	機 械 工 学 科	電 気 電 子 工 学 科	制 御 情 報 工 学 科	物 質 工 学 科
1 年	徳 永 慎 太 郎	比 留 間 浩 介	田 阪 文 規	田 邊 英 一 郎
2 年	茨 木 貴 徳	加 田 謙 一 郎	野 々 村 和 晃	上 松 和 弘
3 年	田 中 浩	神 田 和 也	内 海 哲 史	佐 藤 司
4 年	五 十 嵐 幸 徳	内 山 潔	西 山 勝 彦	戸 嶋 茂 郎
5 年	矢 吹 益 久	森 谷 克 彦	安 齋 弘 樹	瀬 川 透

(出典：平成25年度学生便覧, p. 168)

学級担任業務について (抜粋)

I. 学年主任および学級担任の役割・業務

学年主任および学級担任の役割・業務は、「内部組織規定第 15 条」で、次のように定められている。

- 『第 15 条 学年主任は、校長の命を受け主事及び学科長と連絡を密にし、担当する学年の運営に関することを掌理する。
2. 学級担任は、校長の命を受け主事、学科長及び学年主任と連絡を密にして次の事項を行う。
- 一 学級の教務に関すること。
 - 二 学級の生活指導等に関すること。
 - 三 学級の特別教育活動に関すること。
 - 四 その他学級運営に関すること。』

なお、次のことを留意して担任業務を行う。

- (1) 学生個人の問題は、学校としての問題になることを念頭に置く。また、担任は、保護者にとって学校の窓口であることも念頭に置く。
- (2) 担当学級での問題を一人で抱え込まず、学年主任、学科長、3 主事と連絡を取る。
- (3) 担任は、学生個人について気づいたことを出来るだけ記録として残す。
- (4) 指導上、他の教員に注意してほしい場合は、教務主事に連絡する。
- (5) 学生情報の流出等、個人情報の管理に注意する。

II. 主な学級担任業務

主な学級担任業務について、以下にまとめて示す。

- 1. 日 常 業 務 2. 定 例 業 務 3. 学習支援業務・学習状況の把握
- 4. 打 合 せ 等 5. 問題行動への対応

1. 日 常 業 務

- (1) 出席状況の把握
始業前に学生の様子を見る。遅刻者・無断早退者に対する指導
- (2) 『出席簿』の管理
- (3) 『学級日誌』の管理
- (4) 教室清掃等の指示・監督
- (5) 放課後、教室の様子を見る。窓の戸締まり・施錠確認
- (6) 服装指導
- (7) 学生への諸連絡
- (8) 保護者への諸連絡

(9) 座席表の作成・席替えの実施

(10) 公欠等の手続き

- ①認められた大会等への参加 ②就職試験等 ③大学等受験 ④交通機関の遮断
- ⑤忌引き ⑥法定伝染病等による登校禁止 ⑦その他、申し合わせに該当する事項

2. 定例業務

- (1) 特別活動（1～3学年；週1回）にて、クラス全体に諸注意・激励等
- (2) 学校行事等、学生が集会を行うときの整列指示・出席確認等
- (3) 合同観劇（1～3学年；年1回）の指導
- (4) 体育大会（年1回）のメンバーの選出、大会当日の応援
- (5) 保護者との学級別個別懇談会にての面談（年1回）
- (6) 高専祭（学校祭）の準備・実施への助言及び支援
- (7) 指導寮生との懇談（1学年・2学年担任；年1回程度）
- (8) 指導要録記載（年1回）
- (9) 工場実習業務（4学年）

3. 学習支援業務・学習状況の把握

- (1) 教科担当者との情報交換
- (2) 定期試験結果による学生指導（前期中間・前期末・後期中間；年3回）
- (3) 成績不振学生への個別指導
- (4) 保護者あて成績通知票へのコメント記載（前期末・学年末；年2回）

4. 打合せ等

- (1) 学年担任の意見交換
- (2) 寮監および学寮関係者との意見交換
- (3) 教科担当者との打合せ・情報交換
- (4) 看護師・学生支援センター相談員との打合せおよび意見交換

5. 問題行動への対応

- (1) 校則違反等をした学生への個別指導および指導報告書類作成
- (2) 停学となった場合は家庭訪問による個別指導および指導報告書類作成
（学生主事等の関係者と連絡を取り学生指導等に当たる）

（出典：平成25年度学生生活指導の手引き，pp. 25～26）

2 学年担任会議事録

第1回2年生担任会.txt

第1回2年生担任会

日時：2013/05/02/ 16:00--18:00

場所：総合科学科長室

出席：上松教授(2B), 加田准教授(2E, 主任),
野々村准教授(2I), 茨木准教授(2M)

欠席：なし

1. 1年生の寮におけるトラブルに関して
 - ・ 2年生の問題ではないが、担任会としては折り返し地点なので高学年への引き継ぎに向けて一度注意喚起を行いたい
 - ・ GW明けに2年生全体を行う予定

[注意内容]

- ・ 差別、いじり、いじめはダメ
- ・ 親しい中に特にトラブルが多い
- ・ 自分にゆとりを持つ
 - 部活等で生活を充実させる
 - やることはやる
 - その日のうちに理解する
- ・ レポート課題はきっちりやる
- ・ 体調管理をしっかり行うように
- ・ ネット利用のモラル
 - 名誉棄損、誹謗中傷は禁止
 - 向こう三軒、両隣りレベルではない
 - パスワード制限だけでは意味がない

[ネットモラル：まとめ]

- ネットは開かれた世界である
- 制限をかけたところでどこかで漏れる
- 名誉棄損、誹謗中傷がある
- そういうものに振り回されるな
- 自分もかかわるな

[教務主事への依頼]

- ・ 学ぶ環境をきっちりしてほしい
 - 電子媒体で提出のレポートがあるがPCを持っていないが学生いる

2. 各クラスの状況
 - ・ 全体的に問題なし
 - ・ 2M：留年者もクラスに適應しようとしているので見守っている
 - ・ 学生の自立を促すため、「担任離れ」を意識する
 - 例えば、高専祭に向けて学生の努力・工夫を促す
 - ・ 中だるみに注意
 - 特に高専際以降、イベントがなくなる
 - 2年の後半は要注意
3. 担任団の基本方針
 - ・ 問題は担任団として立ち向かう
 - ・ 学生、担任もすべて守っていく
 - ・ お互いにガス抜きは必要
 - ・ 優先順位は「授業 ⇒ 担任 ⇒ 校務・研究」

— 以上 —

(出典：2 学年担任会議事録)

機械工学科会議 議事録 (抜粋)

平成25年度 第1回 学科会議 4月4日(木) 10:00~11:30

出席者：末永, 本橋, 當摩, 竹村, 五十嵐, 田中, 増山, 佐々木, 矢吹, 今野, 小野寺

5. 担任・工場見学引率・入学試験・企業訪問

- ・担任 5M: 矢吹, 4M: 五十嵐, 3M: 田中
- ・工場見学引率 4M: 五十嵐・小野寺 (関東地区, 11月)
(予定を学科長へ) 3M: 田中・他教(職)員1名 (内陸地区)
2M: 竹村・他1名 (庄内地区)
1M: 末永・他1名 (鶴岡市内, 10~11月)

従来:1~3年生の引率に技術職員1名を依頼。今後:基本教員2名で対応, することに了解が得られた。

- ・学力入試 山形: 五十嵐, 米沢: 今野, 予備: 小野寺 (内陸組は採点無し)
- ・編入学試験 面接: 本橋・田中(3M担任), 問題作成: 佐々木・小野寺, 監督: 今野
- ・専攻科入試 面接: 本橋, 問題作成: 末永(水力)・五十嵐(材料)・増山(材力)・矢吹(工力), 監督: 竹村
- ・企業訪問 東京: 本橋(3泊4日), 内陸: 竹村(2泊3日)

9. 就職活動状況

- ・5M担任より活動状況一覧が配布・説明された。
- ・配属決定後, 保護者懇談前の斡旋願については電話で保護者に確認することにした。
- ・企業訪問者より, 面接練習をして欲しい要望があったことが説明された。

10. その他

- ・3M担任: 留学生ハジックは日本語が不自由なので配慮必要
- ・情報専門委員: 7月までにLAN接続調査, 10月までにIP資産管理調査
- ・竹村先生: 4Mゼミで研究室へ仮配属復活の提案 ⇒ 次回以降検討する
- ・学生支援センタ: 要支援の学生については, 関係者に直接連絡する
- ・FD: JABEE用保存資料の提出 (前年度分)

(出典: 機械工学科資料)

教員会議案内（連絡協議会）

題名 【通知】第3回教員会議について
差出人 土門 春奈

平成24年6月7日

教員会議構成員各位

校 長

第3回教員会議について

今回は、「校長、副校長、FD委員長、担任との連絡協議会
ならびに新任（若手）教員研修」と題して下記のとおり実施
しますので、ご出席願います。

記

日 時 6月13日（水）15：50～

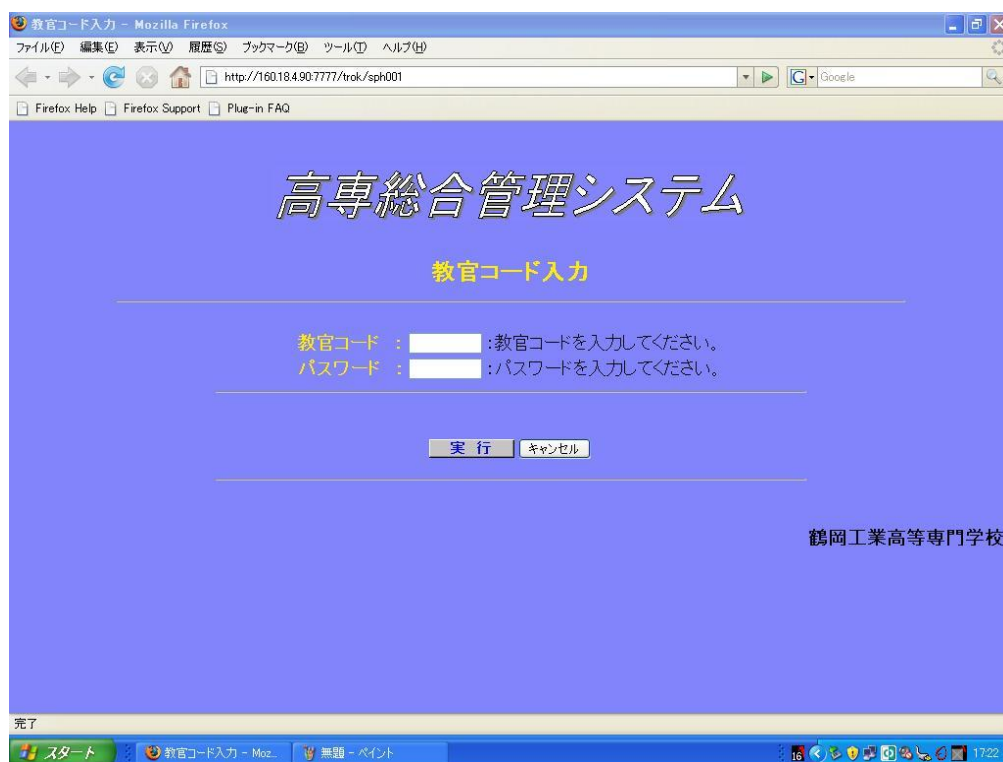
場 所 大会議室
※今回は座席指定はありません。
報告される先生方は前の方に
ご着席願います。

話 題

1. 「新生生の学力変遷と3年到達度試験
結果について」
(報告者：上松教務主事補)
2. 「本校が目指す学生支援について」
(報告者：山田学生支援副センター長)
3. 本校におけるFD活動について
(報告者：飯島FD委員長)
4. 第1学年主任、第2学年主任、第3学年
各担任ほか、学年、クラス状況の報告
5. その他

(出典：総務課資料)

高専総合管理システム



(出典：高専総合管理システム)

課外活動への留意点（学生指導の手引きから抜粋）

2. 部について

- ・心身の健全な発達に努める。
- ・目標（大会、コンテスト）に向けての努力、忍耐力の涵養を図る。
- ・地域との交流を図る。
- ・規律ある集団生活を通して、連帯感、協調の精神の高揚を図る。
- ・集団の中の一個人として、他を思いやる心、包容力、コミュニケーション能力、豊かな感性の涵養を図る。

※留意点

- ・本校の学生の大部分は未成年者であるため、生活や行動において十分な責任を負う能力を有していない。そのため、学校としては細心の注意をもって、また大局的観点に立って指導しなければならない。
- ・顧問教員は各学生の心身の状況や学習状況に心を配る必要がある。
- ・競技または部活動中に事故が起きないように、事前指導を徹底する。
- ・万一、事故が起きたときは、適切な処置を行う。休日等で顧問教員が不在のときは、学寮の宿日直教員が応急処置をして関係教職員に連絡する。
事後においては、負傷者および保護者には誠意をもって対処する。

(出典：平成25年度学生生活指導の手引き, p. 1)

課外活動担当非常勤教員の募集

題名 課外活動担当非常勤教員(外部人材等)の募集
差出人 江口 宇三郎

平成24年1月30日

顧問教員 各位

学生主事 江口

日頃、学生の課外活動にご尽力いただき有難うございます。
さて、来年度より教職員の業務負担軽減方策の一つとして、課外活動指導関係業務を担当する非常勤教員（外部人材等）を採用することが可能となりました。
つきましては、教職員の皆様より非常勤教員（外部人材等）の推薦をお願いできれば幸いに存じます。
尚、採用するに当たっては、次の3項目に該当する人材が適切と思われますのでご留意をお願いします。

- ① 本高専を定年退職する（した）教員
 - ② ①項の確保が困難のとき、本高専卒業生で、企業等を退職した者
 - ③ ①&②項の確保が困難のとき、中学校・高校教員退職者で、課外活動の実技の指導経験を有する者
- 以上ですので、経歴書を添付の上ご推薦をお願いします。

尚、本メールは全教職員に配信していますので、心当たりのある方のご推薦を歓迎します。

江口 宇三郎 eguchi@tsuruoka-nct.ac.jp

(出典：学生委員会資料)

後援会費の主な用途

1 一般会計

① 課外活動等援助費

- ・学生の東北体育大会参加に係る経費（交通費・宿泊費・食事代）の 2/4 助成（学生会 1/4、参加学生 1/4 負担）
- ・学生の東北コンテスト（ロボットコンテストなど）参加経費に係る交通費・宿泊費・食事代の 2/4 助成（学生会 1/4、参加学生 1/4 負担）
- ・クラブ活動費としてコーチ謝金、クラブ指導費各部（体育 17 団体・文化 7 団体）5 千円、各愛好会（4 団体）3 千円、高専体育大会参加クラブ競技団体加入料など

② 就職・厚生補導等援助費

- ・就職開拓経費や日本スポーツ振興センター掛金など

③ 学生指導等援助費

- ・皆勤賞・優秀賞・功績賞・努力賞などの表彰に係る経費（記念品・賞品）など
- ・専攻科生の学会参加に係る経費（2 年間で一人 2 万円上限）の助成
- ・JABEE 対応経費として TOEIC 検定に助成

④ 学校運営援助費

- ・学校運営費として全国高専体育協会会費など各協会会費
- ・研修等経費として学生相談研修会参加費など
- ・中学校招待体育大会費への補助
- ・卒業式経費として卒業記念品(証書ホルダー)の作製、祝賀会経費
- ・各地区懇談経費として各地区保護者会経費（6 地区各 3 万円と会員 1 人当り 300 円）など

⑤ 事務費

- ・会議費として役員会や監査など会議時の交通費・食事代など
- ・慶弔費として学生・保護者の死亡時の弔慰（香典・花・弔電）
- ・通信・物品・手数料として会員や役員への連絡用切手、事務用品、振込手数料等
- ・人件費として事務員の給料

2 特別会計

学生の全国体育大会・全国コンテスト（ロボットコンテスト・プログラミングコンテストなど）参加に係る交通費・宿泊費・食事代の 3/4 助成（参加学生 1/4 負担）、大会分担金や参加料など、高校総体参加に係る交通費・宿泊費・食事代の 1/2 助成

3 教育助成金

進路対策や各大会学生引率に係る教職員の交通費・宿泊費（機構・学内旅費規定による）など

（出典：後援会資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では、担任会，学科会議，学生委員会，及び後援会等により支援体制が整備され，教育活動が円滑に実施されている。

以上により，教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程及び専攻科課程の教育組織は、学校教育法の規定に適合しており、4専門学科の教員と総合科学科の教員が良く連携して教育に当たっている。

また、全学的なセンターが設置されており、学生及び教職員の学習、教育・研究等の支援に活発に活用されている。

さらに、教育課程全体を企画調整する検討・運営体制が整備されて、重要事項の審議など必要な活動が行われている。加えて、教育課程全体を支援するための体制が整えられている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準2の自己評価の概要

本校準学士課程の学科は、機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科及び物質工学科の4学科であり、高等専門学校設置基準に沿った構成となっている。各学科は、本校の目的に沿って具体的な教育方針に基づいて、科学技術の動向や社会のニーズに沿った教育を行っており、学科の構成は教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

本校の専攻科課程は、学校教育法の規定に適合して設置されている。本校の教育目的に照らし合わせて教育目標が掲げられ、それに基づき教育方針が立てられ、地域社会の要請にも応えており、専攻科課程の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

全学的なセンターである、地域共同テクノセンター、学生支援センター、総合情報センター、教育研究技術支援センター及び国際交流支援室は、学生及び教職員の学習、教育等の支援に、多方面から活発に活用されており、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

運営会議、教務委員会、専攻科委員会等、規程が定められており、教育活動については常にPDCAサイクルがまわり、活動を停滞なく行っている。教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われている。

教務委員会、専攻科委員会、FD委員会、評価・改善委員会では、常に一般科目と専門科目の連携について検討され、実施に移せるようになっている。物理、数学の学力向上、コミュニケーション、国際教育、キャリア教育等で一般科目と専門科目の教員間の連携が図られており、それらは機能的に行われている。

本校では、担任会、学科会議、学生委員会、及び後援会等により支援体制が整備され、教育活動が円滑に実施されている。

以上により、教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能している。